

# 第1学年C組 図画工作科学学習指導案

授 業 者 三浦 茉莉  
研究協力者 長瀬 達也  
教材分析協力者 石井 宏一

## 1 題材名 ふしぎなせかいでみつけたよ～くものって～

### 2 子どもと題材

#### (1) 子どもについて

絵に表すことやつくることが好きな子どもが多い。「わたあめでできた遊園地」や「うずまき型のジェットコースター」など、実際にはないけれどあったら楽しいと思うものを絵に表す活動に楽しんで取り組んできた。

本題材に至るまでに、好きなものを描いたり、色紙を切って模様づくりをしたりすることを経験している。その時には、いきなり描き始めるのではなく、「魔法のランプをこすって出したいもの」や、折り紙の色や切って生まれる形、模様などから「物語を作る」などと設定を加えたところ、表したいことが思い付き、表現を発展させようとする姿が見られた。

このように、想像を広げる楽しさを味わいながら意欲的に表現を進めていく子どもがいる一方で、表したいことを見付けることが難しい子どももいる。また、ある程度表現するとすぐに満足してしまい、活動が停滞する姿が見られることがある。本題材では、想像する活動に楽しく浸る中で、表したいことを見付けて粘り強く試行錯誤を続ける子どもの姿を期待する。

#### (2) 題材について

本題材における「学びのものさし」を働かせる姿を、自分が表したいことを念頭におき、形や色の視点に立って試行錯誤する姿と捉える。

本題材で期待することとして、大きく二つ考えている。一つ目は、「雲に乗っている自分」という、子どもを特別な世界に誘う設定をすることにより、想像が促され、表したいことを見付ける一助となることである。子どもたちは、世界に浸る中でさらに自分で物語を作り出し、表現を工夫していくことが期待される。

二つ目は、自己決定が促されることである。例えば表したいことを見付ける段階で、雲に乗っている自分を描くか、自分から見える世界のみを描くかなど、表し方を選択することとなる。また、雲に乗っている自分が見上げて見える世界、見下ろして見える世界、雲の中に見える世界など、視点の選択も行われる。実際に表す段階では、表したいことに合った紙の色や描画材などにも選択の機会がある。こうした自己決定の経験を積み重ねていくことで、工夫して表す力の育成につながる。と考える。

そこで本題材では、**形や色に着目して、雲に乗っている自分や想像したことを表す活動を通して、表したいことを工夫して表す力の育成を目指す。**

#### (3) 指導について

研究の重点との関連から、主な手立てとして二つ挙げる。一つ目は、自分や友達の作品の鑑賞の場を工夫することである。子どもの活動の流れを途切れさせないように、学習形態をグループの形にし、自然に自他の鑑賞が行われ、表現との往還が生まれるような場の設定をする。また、表現の自己決定に刺激を与えるために、教師が子どもの表現のよさを見取った上で意図的に作品を取り上げ、全体で鑑賞する時間も適宜設ける。作者である子どもに表したいことを語らせた上で表現を味わう活動や、表現を見て作者の意図を想像する活動など、鑑賞の仕方を工夫する。このことにより、「表したいことについての内省」と「表したいことを踏まえた表現の工夫」とが行き来するようにしたい。

二つ目は、子どもとの対話を大切にした支援である。一人一人の子どもの表したいことを把握することで、効果的な言葉掛けができると考える。そのために、本題材と国語科「くじらぐも」の学習を関連させて展開する。「雲に乗っている自分」として想像した不思議な世界を言葉でたくさん集めておき、ある程度子どもたちの想像の世界を把握しておく。「雲の上に何が見えるかな。」「雲の中にも何かありそうだよ。」などと、想像を促す言葉掛けをする。

学級の実態として、ある程度表現するとすぐに満足してしまい、活動が停滞する子どもがいると予想される。そのため、表現の途中においても「ここはどんなところなの？」などと問い掛けをして想像を膨らませたり、雲に乗っている自分を登場させるなどの助言を行ったりする。

## 3 題材の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

- (1) 表したいことに合わせて表し方を工夫して表すことができる。 (e27)
- (2) 表したいことを見付け、どのように表すかについて考えることができる。 (d19、d20)
- (3) 想像したことを表現したり、鑑賞したりする活動に楽しんで取り組もうとする。 (a1)

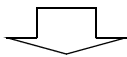
4 題材の構想 (総時数 6 時間)

どうぶつさんとあそぼう  
動物と一緒にしてみたい遊びを想像し、遊んでいる感じが表れるように工夫して表すことができる。

本題材

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の主な支援	評価 (本校の資質・能力との関連)
1	(1) 「雲に乗っている自分」という世界に浸り、想像したことを言葉で出し合う。 ・この空をずっと上っていったら、宇宙が見えたよ。 ・雲の中に、ふわふわの遊園地があったよ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・想像の世界に浸ることができるように、実際に雲に乗っているところを演じる活動を設定したり、対話により想像を引き出したりする。</li> <li>・想像したことを次時以降も振り返ることができるように、子どもの発言を書いたものを掲示しておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「雲に乗っている自分」という世界に浸り、不思議な世界を想像する活動に楽しんで取り組んでいる。 (a1)</li> </ul>
くもにのってみてきたふしぎなせかいをみんなにもみせてあげよう。			
2 3	(2) 旅をする時に自分が乗る、オリジナルの雲を作る。 ・パスの色を混ぜて、夕焼け色の雲にしよう。 ・紙を切ってみたら、面白い形の雲になったよ。 ・船の形の雲に乗って、空を旅したいな。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の雲への愛着をもち、形と色にこだわって雲を作ることができるように、既習の描画材について振り返る。</li> <li>・次時の活動につなげることができるように、「この雲に乗ると、どんなところへ行けそうかな？」などと問い掛ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乗って楽しい雲を想像し、工夫して表している。 (e27)</li> </ul>
4 本 時 5	(3) 想像した不思議な世界を絵に表現する。 ・宇宙を表したいから、黒い画用紙に描こう。 ・ぼくが乗っている雲は高いところを飛んでいるから、紙の上の方に貼ってみようかな。 ・白いクレヨンでぐるぐる模様を描いて、ふわふわの滑り台の感じを出そう。 ・遊園地の広い感じをもっと表したいな。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表したいことに合わせて表し方を考えることができるように、描画材を選択できる環境づくりをする。</li> <li>・表現しながら想像をさらに膨らませることができるように、子どもとの対話を大切にして、表したいことを引き出す。</li> <li>・造形的なよさを見付けて自分の表現に生かすことができるように、鑑賞の場や取り上げ方を工夫する。</li> <li>・表現を発展させていくことができるように、前時までに作った雲を貼ったり、画面の中に自分を登場させたりするなどの表し方もあることを助言する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表したいことを見付け、どのように表すかを考えている。 (d19、d20)</li> <li>・表したいことに合わせて工夫して表している。 (e27)</li> <li>・自他の作品を鑑賞し、造形的なよさや面白さなどを感じ取っている。 (f 34、f 35)</li> </ul>
6	(3) 友達と作品を見合い、造形的なよさや面白さなどを味わう。 ・自分とは違う世界を見て来たんだな。面白いな。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鑑賞する楽しさを実感することができるように、自分が作品に込めた思いや友達の作品のよさを伝え合う時間を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自他の作品を鑑賞し、造形的なよさや面白さなどを感じ取っている。 (f 34、f 35)</li> </ul>

**◎本題材で育む主な資質・能力**  
形や色に着目して、雲に乗っている自分や想像したことを表す活動を通して、表したいことを工夫して表す力 (e27)



できたらいいなこんなこと  
自分の願いや夢を想像し、どのように表すかを考えて工夫して表すことができる。

5 本時の実際（4／6）

(1) ねらい 形や色に着目して、雲に乗っている自分や想像したことを表す活動を通して、  
表したいことを工夫して表すことができる。 (e27)

(2) 展開

○「学びのものさし」を働かせて省察したり、自律的に学習を進めたりするための支援

時間	学習活動	教師の支援 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価</span>
7分	<p>① めあてを確認する。</p> <p>— めあて —</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">くもにのってみてきたふしぎなせかいをみんなにもみせてあげよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>想像の世界に浸り直すことができるように、前時までの学習を振り返り、これまでにどのような世界を想像したか全体で共有する。</li> </ul>
34分	<p>② 想像したことを表す。</p> <p>&lt;予想される子どもの反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>空をずっと上っていったら、宇宙が見えたよ。</li> <li>雲の中に、ふわふわの遊園地があったよ。</li> <li>雲の下に、海の世界が見えたよ。</li> </ul> <p>【画用紙や描画材を選択し、表現する】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ぼくが乗っている雲は高いところを飛んでいるから、紙の上の方に貼ってみようかな。</li> <li>宇宙を表したいから、黒い画用紙に描こう。</li> <li>白いクレヨンでぐるぐる模様を描いて、ふわふわの滑り台の感じを出そう。</li> </ul> <p>【表したいことがあるが困り感をもっている】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>思ったように描けない。見て描けたらなあ。</li> <li>失敗しちゃった。もう一枚紙をもらいたいな。</li> <li>キャラクターを描きたいけど、だめだよな。</li> <li>遊園地の広い感じをもっと表したいんだけど、どうしたらいいかな。</li> </ul> <p>【ある程度描いて満足する】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全部描いたからもうやるのがなくなっちゃった。</li> <li>次にどうしたらよいのだろう。</li> </ul> <p>【表したいことを見付からない】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実際に雲に乗っていないから、想像できないよ。</li> <li>雲に乗る想像をするのは楽しいけど、何も思い付かないな。</li> </ul>	<p>○表したいことを見付け、想像を広げていく一助とすることができるように、前時に作った雲を画用紙上で動かして想像を話し合う鑑賞活動を設定する。</p> <p>○表したいことに合わせて表し方を自己決定することができるように、紙や描画材を選択できる環境づくりをしておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>表し方の見通しをもつことができるように、対話を通して困り感を聞き出し、助言する。</li> <li>表現が停滞している子どもがいた場合は、友達の表現のよさを真似たり、自分を登場させたりするなどの表し方もあると助言する。</li> <li>表したいことを見付けることが難しい子どもがいた場合は、オリジナルの雲と一緒に動かしたり、対話したりしながら、雲に乗っている場面の想像を促す。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">表したいことに合わせて、画用紙の色や描画材、表し方などを工夫して表している。 (e27) (活動の様子・対話・作品)</div>
4分	<p>③ 鑑賞を通して本時の学びを振り返る。</p> <p>&lt;予想される子どもの反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>〇〇さんは、こんな工夫をしたんだな。次にわたしもやってみたいな。</li> <li>雲の遊園地の楽しい感じを表したいから、次は遊びに来た動物のお友達を描いてみよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自他の学びのよさを共有し、次時の活動につなげることができるように、鑑賞を通して気付いたことや次時に頑張りたいことを問い掛ける。</li> </ul>

# 令和6年度 図画工作科実践・研究計画

部 員	○三浦 茉莉、大森 果歩
-----	--------------

研究テーマ  
**表したいことをはっきりともち、「学びのものさし」を活用しながら表現を工夫していく子どもを育む学び**

## 1 研究テーマについて

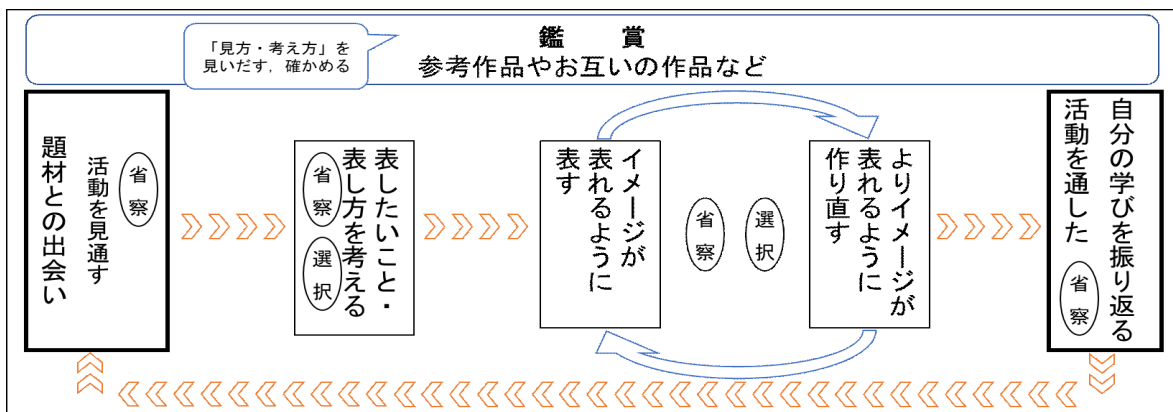
図画工作科の特質は、自分が表したいことを形や色で表すことである。形や色に着目した「見方・考え方」を自分のものとし、深めていくことが「学びのものさし」を更新していくことにつながると考え、昨年度までの実践を行ってきた。

2年生の実践では、子どもが表現する前に物語の世界に入り込むことができるような設定をすることにより、表したいことをはっきりともつ姿が見られた。また、「何をしているところなの？」「そこはどんなところ？」というように、作品に描いた物語を引き出すような語り掛けにより、作品の構成や形、色などの表現を工夫しようとする姿が見られた。

また、鑑賞を通して気付いた「魚の形をはみ出させると海の広い感じがするな。」「色が薄いと優しい感じがするな。」というような造形的な「見方・考え方」を、自分の表現に活用しようとする姿が見られた。だが、こうした姿は一部の子どもに留まり、全ての子どもが自分にとって意味のある気付きを得る鑑賞となっていたとは言えない。表現と鑑賞が互いに働きかけ合い、高まっていく鑑賞、表現の自己決定に刺激を与えることができる鑑賞の在り方を今年度も探っていきたい。

自分の「見方・考え方」を深めていくことで表したいことを見付ける力が高まり、表現の幅も広がるものと考えている。自分が表したいことをはっきりともち、更新した「学びのものさし」を活用して表現を工夫していく子どもの姿を目指して、研究を積み重ねていきたい。

- 図画工作科で目指す自律した子どもの姿
- ・表したいイメージに近付くように表し方を工夫したり、造形的な活動を工夫したりしながら、「学びのものさし」を更新していく姿。
  - ・作品づくりや鑑賞を通して自分の見方や感じ方を深め、自分の学びを自覚して今後に生かそうとする姿。



図：図画工作科 自律した学習者を育てる学習のプロセス

## 2 研究の重点〈○は具体的な取組の例〉

- 形や色などに着目した「見方・考え方」を働かせながら、表現や活動を工夫していく子どもを支えるための手立て
- 表現の効果に着目して作家の作品や友達、自分の作品について話し合うなど、その後の表現の自己決定に刺激を与えることができる鑑賞の在り方の工夫。
  - 子ども一人一人の表したいことを見取り、効果的に表現できるような気付きにつなげるための、子どもとの対話を大切にしたい支援。

## 令和6年度「図画工作科の資質・能力」表

※□は、資質・能力の取り扱い学年、■は、定着学年を示す。

内容			学習指導要領との関連内容	1年	2年	3年	4年	5年	6年
図工科の学びに向かう力、人間性等	a1	楽しく表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わう。	1.2AB(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	a2	進んで表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わう。	3.4AB(1)(2)		□	■	■	■	■
	a3	主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わう。	5.6AB(1)(2)				□	■	■
	a4	形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする。	1.2AB(1)(2) 3.4AB(1)(2) 5.6AB(1)(2)	■	■	■	■	■	■

図工科の各領域の付けたい力 「思考力・判断力・表現力等」 A表現(1)(2) 【造形遊び】	b5	身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に造形的な活動を思い付く。	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	b6	感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するのかについて考える。	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	b7	身近な自然物や場所などを基に造形的な活動を思い付く。	3.4A(1)(2)			■	■	■	■
	b8	新しい形や色などを思い付きながら、どのように活動するのかについて考える。	3.4A(1)(2)			■	■	■	■
	b9	材料や場所、空間などの特徴を基に造形的な活動を思い付く。	5.6A(1)(2)					■	■
	b10	構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながら、どのように活動するのかについて考える。	5.6A(1)(2)					■	■

図工科の各領域の付けたい力 「知識及び技能」 A表現(1)(2) 【造形遊び】	c11	身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れる。	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	c12	並べたり、つないだり、積んだりするなど手や体全体の感覚を働かせ、活動を工夫してつくる	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	c13	材料や用具を適切に扱う。	3.4A(1)(2)		□	■	■	■	■
	c14	前学年までに扱った材料や用具についての経験を生かす。	3.4A(1)(2)		□	■	■	■	■
	c15	組み合わせたり、切ってつないだり、形を変えたりするなどして、手や体全体を十分に働かせ、活動を工夫してつくる。	3.4A(1)(2)		□	■	■	■	■
	c16	活動に応じて材料や用具を活用する。	5.6A(1)(2)				□	■	■
	c17	前学年までに扱った材料や用具についての経験や技能を総合的に生かす。	5.6A(1)(2)				□	■	■
	c18	前学年までに習得した方法などを組み合わせたりするなどして、活動を工夫してつくる。	5.6A(1)(2)				□	■	■

図工科の各領域の付けたい力 「思考力・判断力・表現力等」 A表現(1)(2) 【絵・工作・立体】	d19	感じたこと、想像したことから、表したいことを見付ける。	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	d20	好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかを考える。	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	d21	感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付ける。	3.4A(1)(2)		□	■	■	■	■
	d22	表したいことや用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかを考える。	3.4A(1)(2)		□	■	■	■	■
	d23	感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことから、表したいことを見付ける。	5.6A(1)(2)				□	■	■
	d24	形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、どのように主題を表すかを考える。	5.6A(1)(2)				□	■	■

図工科の各領域の 付けたい力 「知識及び技能」 A表現(1)(2) 【絵・工作・立体】	e25	身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れる。	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	e26	手や体全体の感覚などを働かせて表す。	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	e27	表したいことを工夫して描いたりつくったりする。	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	e28	材料や用具を適切に扱う。	3.4A(1)(2)		□	■	■	■	■
	e29	前学年までの材料や用具についての経験を生かして表す。	3.4A(1)(2)		□	■	■	■	■
	e30	手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫する。	3.4A(1)(2)		□	■	■	■	■
	e31	表現方法に応じて材料や用具を活用する。	5.6A(1)(2)				□	■	■
	e32	前学年までに扱った材料や用具についての経験や技能を総合的に生かして表す。	5.6A(1)(2)				□	■	■
	e33	表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫する。	5.6A(1)(2)				□	■	■

図工科の各領域の 付けたい力 B鑑賞	f34	自分たちの作品や身近な材料などを鑑賞する。(身の回りの作品など)	1. 2B	■	■	■	■	■	■
	f35	造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりする。	1. 2B	■	■	■	■	■	■
	f36	自分たちの作品や身近な美術作品、製作の過程などを鑑賞する。(身近にある作品など)	3. 4B		□	■	■	■	■
	f37	造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりする。	3. 4B		□	■	■	■	■
	f38	自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形などを鑑賞する。(親しみのある作品など)	5. 6B				□	■	■
	f39	造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりする。	5. 6B				□	■	■
	f40	鑑賞活動を通して、自分の見方や感じ方を広げる。	1.2B(1)(2) 3.4B(1)(2) 5.6B(1)(2)	■	■	■	■	■	■

図工科の〔共通事項〕 「知識」 「思考力・判断力・ 表現力等」 A表現 B鑑賞	g41	形や色の同じ、違う、似ている、似ていない、大小、長短、丸・三角・四角などの大まかなまとまり、触った感じなどを捉える。	1.2AB	■	■	■	■	■	■
	g42	偶然見付けた形や色、見立てなどを基に、自分のイメージをもつ。	1.2AB	■	■	■	■	■	■
	g43	形の柔らかさ、色の暖かさ、それらの組み合わせによる感じ、重なり、前後、色の明るさ、質感などを捉える。	3.4AB		□	■	■	■	■
	g44	形や色の感じ、自分の思いや経験などを基に、自分のイメージをもつ。	3.4AB		□	■	■	■	■
	g45	動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさ、方向感、材質感、時間的な変化の動き、量感などを捉える。	5.6AB				□	■	■
	g46	形や色などの造形的な特徴を基に、具体的なイメージや、抽象的なイメージをもつ。	5.6AB				□	■	■

<図工科の学びを支える造形的な「見方・考え方」>

- a 対象や事象を形や色などの造形的視点で捉える。(形の大小, 色の濃淡, 動き, バランス, 色の鮮やかさ, 形や色の感じなど)
- b 自分のイメージをもちながら意味や価値をつくり出す。(表したいことをもつ, 自分と対象との関わりを深めるなど)

低学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・並べる</li> <li>・つなぐ</li> <li>・積む</li> <li>・重ねる</li> <li>・かぶせる</li> <li>・丸める</li> <li>・破る</li> <li>・巻く</li> <li>・つるす</li> <li>・たらす</li> <li>・ちぎる</li> <li>・丸める</li> <li>・のばす</li> <li>・同じ違う</li> <li>・似ている似ていない</li> <li>・大小</li> <li>・長短</li> <li>・丸, 三角, 四角の大まかなまとまりでとらえる</li> <li>・見立てる</li> </ul>
中学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・変形</li> <li>・質感</li> <li>・色の組み合わせ</li> <li>・向き</li> <li>・しかげや動くしくみ</li> <li>・切ってつなぐ</li> <li>・線の太さ</li> <li>・絵の具の水加減(色の濃さ)</li> <li>・色の混ぜ方</li> <li>・色の明るさ, やわらかさ</li> <li>・意味付ける</li> </ul>
高学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奥行き</li> <li>・強調</li> <li>・線の強さ</li> <li>・バランス</li> <li>・前後関係</li> <li>・形や色が互いに響き合う配置</li> <li>・動き</li> <li>・時間的な変化</li> <li>・色の鮮やかさ</li> <li>・色の変化</li> </ul>